

女1 長女 ヒマワリ  
女2 次女 モモ  
女3 三女 エリカ

舞台上にはテーブルと椅子二脚がある

女2と女3がお茶を飲んでいる

開演

女3 だからさ、モモちゃんからも何とか言ってみよ。

女2 うーん、私が？

女3 そうだよ。全然ダメで、お姉ちゃんたら。

女2 でもさ、

女3 なに？

女2 前からじゃん、お姉ちゃんが部屋片付けなくてさ、夜遅くに帰ってきてバタバタしてさ、こっちが昼間に活動してるとうるさい、眠れないって。

女3 そうだけど。限度ってものがあるでしょ。私もう結構限界だよ。

女2 わかるけどね。まあこのまま死ぬまですっと一緒に住むわけでもなし、もうちょっと我慢してみなよ。

女3 モモちゃんはイケだよ。

女2 なんてよ。

女3 もうちゃんと家があつてさ、お姉ちゃんと一緒に暮らしてた時は色々言ってた！ 夜うるさいとか、片付けしないとか！

女2 まーね、そりゃそうだけど。

女3 昨日だつてさ！

女2 昨日？

女3 昨日だつて、深夜の二時くらいにドア乱暴にガチャガチャしてさ。私一人じゃん？ ビクッてるじゃん？ そしたらさ、何かワケのわかんない歌歌いながらウイーっつって入ってきて、電気ピカーって全開でつけて、私寝てるのに、洗面所まで！ 私への気遣いとか何もなしでさ、着てた服まんまでソファーにどーんって！

女2 あらら。

女3 私が起きてうるさいよって言ったらさ、もっと大きい声でお前がうるさい！ってゲラゲラ笑って。あれ絶対お酒入ってたよ。てかペロペロ口だった。間違いない。

女2 (苦笑)

女3 付き合いだかんだか知らないけど、強くもなくせにやまほどお酒飲むんだから。

女2 弱いもんねお酒、うちの家系。

女3 ってゆうかお母さんが弱いから。

女2 あー。そうだよねえ。親戚のおじさんとかだったら強い人もいたんだけどね。お母さんが弱いから、なんか私たちも強くなりようがないっていうか。

女3 でしょ。

女2 まあ私はもう慣れたけどね。ま、強くなったって訳じゃなくて、飲み方覚えただけなんだけど。

女3 飲み方？

女2 そ。人にはそれぞれその人にあつた飲み方つてのがあるんだよね。それにあわせて飲んでれば、例え弱くてもほどほどに楽しく飲める。

女3 へえ！ ……やっぱちゃんと社会人やつてると違つなあ。

女2 エリちゃんは飲まされたりするの？

女3 え？

女2 ホラさ、今度入つた職場、飲み会でさ、飲まされたりするの。

女3 ーん、そういうのはないよ

女2 よかつた。安心したよ。

女3 モモちゃん、心配しすぎー。私だつて断る時はちゃんと断れますー。お姉ちゃんみたいに弱いくせにガバガバ飲んだりはしないの！

女2 うん。

女3 でもやっぱモモちゃんは優しいよねえ。なんかそういうのが嬉しいなあ。お姉ちゃんとは全然違つうね！ ほんと。

女2 そうなの？

女3 そうだよ！ お姉ちゃんなんか私の心配してくれた時ない！ なんてゆーかさ、薄情？ みたいな。

女2 ーかな、そんなこと（ないと思うけど）

女3 あるよ！ そんなことある！ お姉ちゃんはすぐ怒るし、薄情！ 私のこと嫌いなんじゃない？

女2 えー。

女3 もういいよお姉ちゃんの話やめよ！ それよりもさ、ねー！ あーあ、楽しみだなあ、モモちゃんの結婚式！

女2 ……ありがと。

女3 で、お母さんとお父さんはどんな反応だつた？ お父さんびつくりしたでしょ！ お前に娘はやらん！とか言つたの？ 式は教会でやるの？ それとも神社とかお寺とか？ っつゆーかさ、お寺の結婚式つてあるの？ 見たことある？ お色直しは何回？ ドレス何色にするの？

女2 なんかさ、困つたらいつでも呼んで！ 私手伝うからね！

女2 うん。ありがと。あ、そうだ、一回打ち合わせ来て欲しいな。ちよつと頼みたいことがあるから。

女3 いいよ！ ーんで、何するの？ 私何するの？

女2 えとね、披露宴で出す食事の試食に行こうと思つてるんだけど、

女3 うん。

女2 一緒に食べてもらつて、感想を聞きたいなど。

女3 うん！

女2 披露宴の食事は大事だからね！

女3 任せてよー！ 私めっちゃ食べるしめっちゃ感想言うから！

女2 ーんじゃ、日付はまた連絡するね。空いてる日あつたら教えて。

女3 わかつた！

女2 ありがと。頼りにしてる。

女3 ま、そこは私でしょ！ そこいくとお姉ちゃんは、大体何食べても、まあ美味しい・つて言うから信用ならん！ ……でもさあ。

女2 なに？

女3 大方の予想通り、やっぱモモちゃんがお姉ちゃんより先になるよねー。

女2 まあねえ、だけどさ、昔ならいざ知らず、今は姉妹で結婚早い遅いの順番があんまり関係ないような気がするよ。

女3 いや、そういうのじゃなくてさ。私も別に下が早くても上が遅くても全然関係ないと思うよ。ただ、この場合は、相手の問題。

女2 相手の？

女3 だつて、モモちゃんの彼氏さんは、優しくて、真面目で、素敵なお父さんになりそうない人でしょ？ それに対してさー。お姉ちゃんの付き合う相手と言つたら、（なんかもうダメな人ばっかで）

女1 エリカー！

女3 あ、やべ。

女2 どしたの。

女1 私のシャツも洗ってって言ったじゃん！ 何で置きっぱなってるのー  
女3 私トイレ行ってくる。

女2 (笑う)

女3 (はげかけ、戻ってきて) ワザとじゃないからね、ちゃんと洗濯機に入れとかないお姉ちゃんが悪いんだからね！  
女2 はいはい(笑いながら)

女1が現れる

女1 エリカー。て、おー、モモ！ お帰り。ん？ お帰り？

女2 (笑う)

女1 なにおかしいの。

女2 それ、さっきのエリちゃんと同じ反応で面白いー。

女1 ーそっかな、でもそうならない？ この場合ってお帰りになるの？ それともいらっしやい？

女2 別にどっちでもいいよ。

女1 そ、じゃ、まあ、お帰り。

女2 たいま。

女1、女3のお茶を勝手に飲む

女1 ぬるっ！

女2 もう淹れてからだいたったからね。

女1 しかも紅茶か。

女2 そうだよ。

女1 私コーヒー派なんだけど。気がかんなーあの子は。

女2 そういふこと言わないの。そもそもお姉ちゃんのために淹れたんじゃないしさ。

女1 まー、そうなんだけどね。(笑う)

女2 てゆかき、お姉ちゃん、今起きたんだよね？

女1 ？ うん。そうだよ。何で？

女2 いや、メイク。

女1 あー。昨日は帰ってきてそのまま寝落ち。

女2 マジで。やばいよそれ。色々やばい。

女1 だよー。わかっちゃいるんだけどねー。…：ね、モモ知ってる？ あれ、水クレンジング。使ったことある？

女2 水クレンジング。聞いたことだけ。使ったことはないけど。

女1 あれさー使ったあと落とさなくていいらしいよ。めっちゃ楽じゃん。革命じゃん。買おうかなー。

女2 でもさー。クレンジングはちゃんと洗い流したくない？

女1 そっかな。

女2 まあどっちにしる寝落ちしたらダメだね。水クレンジングがいくら楽でも、使う前に寝落ちしてちゃ。

女1 確かに。肌日に日に死んでる感ある。荒れやすくなったし、もー何よりハリが違う！ 若かりし頃と比べて。ふーりむくーたびにもう、わかっはーなーいさー(歌う)

女2 (笑う)

女1 あ、そいやエリカは？

女2 トイレって言ってたけど。

女1 いやたぶん逃げたな。

女2 なんて。

女1 私と顔突き合わしたくないんじゃない？

女2 ケンカしてるの？

女1 別に喧嘩はしてないけどさ。なんかめんどくさいみたいよ、私が。  
女2 まあ、さっきの様子じゃね。  
女1 そんなこと言ったってさー、ね。始終一緒の部屋にいるんだから色々あるっつーのな。頭かたいんだよ。洗濯するっていうからじゃあついでにーってお願いで置いていたら、洗濯機の中に入ってなかったからってほったらかしとか。  
女2 それはお姉ちゃんが悪い。  
女1 マジ。  
女2 マジです。  
女1 そっかー。  
女2 エリちゃんは多分いろいろため込んでからわっと爆発するタイプだから、あんまり追い詰めないで上げてよ。  
女1 そんなつもりもないんだけどねー。  
女2 お姉ちゃんの気持ちもわかるけどさ。私もどっちかと言えばエリちゃんと同じタイプだからさ。  
女1 で、何。何かあったの？  
女2 え？  
女1 え、て。わざわざモモちゃん帰ってきたんだから、何かあったなって思うじゃん。何よ、例の彼氏と喧嘩でもした？  
女2 じゃ何。  
女2 あー。あのね。さっきエリちゃんには言ったんだけどさ。  
女2、女1に耳打ち  
女1 まーじーかー。  
女2 うん、マジ。  
女1 きたかー。ついにきたかーこの時が。  
女2 うん。  
女1 ついにか。ついに結婚するのかー。モモ。  
女2 ……うん。  
女1 うわーうわーうわー。  
女2 お姉ちゃん驚きすぎ(笑う)  
女1 いやーそりゃさーいずれ、とは思っていたけどねー。  
女2 なんか照れるわーその反応、ねえやめてよー。  
女1 ふえー。私にもついにあれね、義理の、弟が、できるわけね！ いやーいままで弟ほしいほしいとは思ってたけど、まさかこの年になってね。とはね。え、彼氏幾つだっけ。年上の弟、とかだったら、マジ複雑！  
女2 もついいよー  
女1 え、え、プロポーズとかってされたの？ どんな感じ？ どんな感じですか？ 夜景の見えるホテルとか？ ひえー。  
女2 笑いすぎ。  
女1 いやーしかし、モモがねー。お嫁さんか！ お嫁さんなるのか！ まじかよー。昨日まで鼻たらしてたモモがね！  
女2 昨日はたらしらないよ。  
女1 え、で、どんな気分？ どんな気分？  
女2 あ、そっか。そっか。えはさ。  
女1 お、照れすぎて話をずらしましたな。  
女2 もついいから。  
女1 はいはい…で、なに？  
女2 はいこれ。  
女2、女1に花を渡す

女1 お、紫陽花。

女2 そう、紫陽花。来る途中で花屋さんで見つけてね。あーそんな季節だなんて思ったらつい買っちゃった。お姉ちゃん花好きだし、あげるよ。

女1 おー、ありがと。キレイ。

女2 ね、綺麗だよ。

女1 あれ思い出すわ、なんかほらあれ、皆で鎌倉行った時の。

女2 あー、紫陽花寺！ 何たっけ、名前。

女1 いや、それは覚えてないんだけど。

女2 私も。紫陽花が綺麗だったことしか覚えてない（笑う）

女1 まあそんなもんだよねー。あ、そうだ、ねえモモ知ってる？ 紫陽花の花の色って、土のPH値によって変わるんだよ。

女2 あー……聞いたことあるかも。

女1 厳密に言えば、もうちょっと違う言い方が相応しいみたいんだけどねー。そういえばウチの裏庭に毎年咲いてたの、何色だったっけなあ。

女2 あー。赤みが強かった記憶。

女1 ってことは、えー。確か、アルカリ性。

女2 へー、うちの裏庭、アルカリ性だったんだ。

女1 まーね、土がアルカリ性ですーとか酸性ですーとか言われても、イマイチピンと来ないけどねー。（笑う）

女2 ね。

女1 あ、てゆーかうち花瓶ないわ。

女2 あ。確かに。うちで花瓶見たことないわ。

女1 どうしよ、これ（笑う）

女2 ほんと、どうしよ。（笑う）

僅かな間

女1 ……なんかさあ。

女2 何。

女1 モモとも一緒に暮らしてた時、ケンカばっかしてた記憶あるわ。離れて暮らすようになってからかな、こんな普通に話せるようになったの。

女2 あー、でもそうかも。ほら家族ってすぐ近くにいる分、なんか逆に構えちゃうっての、あるかもね。

女1 そーゆー感じ、わかるー。実家だつて出るまでお母さんやお父さんとケンカばっかしてたもん。

女2 そうだね。私もそうだった。……だからさ、エリちゃんもさ。

女1 エリカ？

女2 だからエリちゃんも一人暮らしとかしたらさ、もつとお姉ちゃんとも普通に仲良くできると思うんだよ。

女1 お、そんな言い方したら私とエリカがケンカばっかしてるとはいじゃないか！

女2 実際そうでしょ。

女1 まね。

女2 やっぱり。

女1 でもなあ、違うかもなあ。

女2 何が？

女1 エリカは、構えちゃってというよりは、なんか、私のこと自体を嫌悪している感がある。

女2 そうかなあ？

女1 うん、なんかちょっと潔癖なところあるから、あの子。色んな意味で。

女2 あー確かに。ちょっとわかるかも。

女1 もうちょっとイイカゲンに生きてもいいのになあって思うけど。

女2 ま、でもお姉ちゃんレベルでイイカゲンになっちゃうよりは。

女1 言ってる。(笑)

僅かな間

女1 まあでも、いつまでも家族に守られたままじゃ生きてけないんだよね。多分、本人が一番わかっているとと思うんだけど。

女2 そうだよねえ、なんか焦ってるのかな？ って感じるよね。たまに相談メール来るし。

女1 そうなんだ。私相談とかされたことない。やっぱり嫌われてんのかなあ。それとも全く頼りにされてないとか？

女2 そういっているのではないでしょ。

女1 でもま、こんなんじゃない。(笑)

女2 相談しやすいんだと思うよ。一緒に住んでないしさ。

女1 しかし、モモに相談できてるならよかったよ。誰かに言えるならいいよね。

女2 確かにそうだね。

女1 まーゆるく見守ってあげてよ。

女2 そーだね。つてかエリちゃん遅くない？ どこ行ったの？ トイレとか言ってたのに。

女1 私が来たから逃げたんだろうねえ。

女2 逃げたて。

女1 逃げるよ。二人でいるの嫌なんよきつと。さつきも言ったじゃん、エリ力はなんとなく、私を

女2 あ、帰ってきた。

女1 お。

女2 お帰り。

女3 だいまー。ねーモモちゃん、まるごとバナナ、買ってき、た……お姉ちゃん。

女1 どこ行ってきたん？

女3 下のサンクス。

女1 何買ったの

女3 なんだっていいじゃん。お姉ちゃんにはあげないよ。

女1 えーケチ。

女3 お姉ちゃんダイエット中なんですよ！

女1 万年ね。

女3 だからこれはモモちゃんと私の。

女1 へいへい。

女3 だいたいお姉ちゃんこの時間いつもまだ寝てんじゃん。

女1 なんか声したから目え覚めたんだわ。ぶっちゃけまだ全然眠い。

女3 夜遅いからだよ。ちゃんと夜寝ないと疲れ取れないよってお母さんにいつも怒られてくるくせに全然改善しないんだから。あとそれ私のだから！

女1 なんて勝手に飲んでんの！

女1 ぬるかっつたよ。

女3 そんなの聞いてない！

女2 やめなよー。

女3 もうやだ、やめてよそういうの！ お姉ちゃん傍若無人過ぎるんだよ！

女1 そんなことないよフツーフツー。

女3 んなわけあるか！ お姉ちゃんいつもいつもそうじゃん！

女1 いつもって

女3 いつもって言ったらいつも！

女1 何それ、ガキかよ

女3 笑うな！

女1 うっさいな。

女3 やめてよ、そういうの、ほんと嫌。私お姉ちゃんのそういうだらしなくてイイカゲンなどこ超嫌い。

女1 ほっとけて。

女3 ほっとけ？ はあ？ そういう言葉遣いもほんと嫌い！ ばかじゃないの、お姉ちゃんほんともういい大人だからそういうの色々どうにかしてよ！

女1 はいはい

女3 タバコ！ 吸うなって言ってるんじゃない！ お姉ちゃんの言動で、私やお母さんたち困らせるのほんとやめてくれる？ お母さんほんと心配してるんだけど！ あの子は男を見る目がないからいつも変な男の人ばかりつかまるって。いつもそうじゃん、お姉ちゃん。私でもわかるしベルなんだけど！ 一方で、お姉ちゃん流石に学習しなよ、って言うよ「あの人私いないとだめなんだよねー」ってそんな訳無いじゃん。またかよ！ またそんなんかよ！ てゆーかさー、いてもいなくても変わんないし。むしろいるから余計にだめになんだよ。

女1 あ？

女3 お姉ちゃんが男のためにしてんじゃないのって。言っとくけど、普通男の人は女の人を殴ったりしないからね

女2 ちょっとエリカ、

女3 女を殴るのだけは男としてやっちゃだめだ、つてのが普通の男の人だからね、お姉ちゃんは知らないと思うけど！

女1 知ってるよ、

女3 知ってるなら学習しなよってずっと言ってるの！ ってゆーかさ、もともとそういう素質がある人ばかりつかまるお姉ちゃんもお姉ちゃんだし、そーゆー人のそーゆー面を引き出してるのもお姉ちゃんだしね！ まあ、かえって相性がいいのかもね！ 割れ鍋に綴じ蓋的なね！

女1 好き勝手言いやがって

女3 いーい？ 普通の男の人は、女の人を殴りません！ いじめは、いじめられる方にも責任がある・とかほざく人のことはもれなくぶん殴りたくなる私でも、これは言う、Σは、される方にも、原因が、ある！

女2 エリカ。

女3 男の暴力を誘発するタイプの女はいる！ 確実に、いる！ 一方で悲劇のヒロインぶってる人はいる！ 私に言わせれば趣味悪いの一言なんだけど！

女2 ねえ。

女3 お姉ちゃんは、エグい。物言いがエグい。男の人がそれをされると、殴るしなくなる！ 話聞いているだけの私にも、わかる！

女1 偉そうに言ってるじゃねえよ

女3 偉そう？ 私が？ 知るか！ そもそも姉妹に上下関係とか無いし！ 偉いとか偉くないとか無いし！ 先に生まれたかどうかの違いだけじゃん！ しかもそれ言うなら私のこと偉そうとか言うお姉ちゃんの方がよっぽど偉そうだからね！ 先に生まれたのがそんなに偉いんですか！

女1 そーいうこと言わないでしょ！

女3 うるさい、黙ってて！

女1 んだと

女1、女3の襟首を掴む

女3、女1を振りほどいて

女3 ほらね！ ほら、すぐこうやって手が出るとことか！ ほんとムカつく！ って言ってるの！

女1 お前、

女2 やめてよ！

女3 ……お姉ちゃん？

女2 やめてって、言ってるでしょ！ だからじゃん！

女3 え？

女2 だからなんだよ。

女1 ……何が。

女2 だから私不安になるんだよ。

女3 モモちゃん？

女2 結婚したらさって思うじゃん。今の彼氏とずっと一緒に暮らすんじゃない。それからきつと私子供産んで育てるんだなって、思うじゃん。家族を作るんだなって思うじゃん。

二人 ……。

女2 確かにね、家族と一緒にいる上で楽しいことはいっぱいあるよ。幸せなこともいっぱいあるよ。でもさ、こんなふうに喧嘩して詰りあってるのかな、って思うじゃん。

女2 家族ってさ、一番近い存在だからこそ、一番傷付けあったりするよね。

女2 だから私すごい不安になるんだよ。うまくやってく自信、ないもん。だからやめてよ、そういうの。

女3 モモちゃん。

女2 昔から二人はさ、そうやって好き勝手思ったこと言っつて、ケンカして、それで私がどう思うかなんて、考えたこともないでしょ！

女2 いつも二人見せて、自由でのびのび生きていいなあって思っつてきた、私はお姉ちゃんには気を遣い、妹には優しく世話焼いて、お母さんにはほめられる、ふつーの、優等生みたいな感じではあったけど、先生からも親からもいつも一番ほめられてはいたけれど、それなのに、いつもいつも窮屈で、どこか。

女2 そこから逃げ出すために色々更に頑張っつて。色々更にほめられて。それなのに更に更に窮屈になっつて。なのに二人は特に悩んでるふうもなく、まるで当然のことみたいなのびのび、やりたいように生きてる！

女2 じゃあ私はどうなるのよ、私は。ふつーに勉強してふつーに頑張っつてふつーに就職して、なのにいつもどこかで物足りないっつていうか、負けてるんじゃないかって気持ちでいっぱい。わかっつてる、わかっつてるよ、勝ちも負けもない、そんなのないんだ。っつて。

女2 それで結婚するんだっつてなっつて、これでふつーながらも幸せになれるのかなっつて思っつて、それでも二人を見てまた不安になっつて、やっぱり私はつまんないふつーの人間なんだっつて思い知らされて。

女3 そんなことないよ。

女2 エリちゃんはいいよね、いつだっつて年下で、可愛がられて、大切にされて。感情むき出しにしてガッつて怒れるし、泣けるし、笑ったり、はしゃいだり、思いのままに生きられて。羨ましいよ、そういうのすごく羨ましい、いいよねあんたは！

女1 モモ。

女2 お姉ちゃんだっつてさ、自由だもんね、どこまでも自由だもんね！ 就職とか、結婚とか、子供産んだりとか、私やたくさんの人が持つてるふつーと言われる価値基準なんか知るかっつて、他人の目なんか知るかっつて、自分のやりたいことやっつてさ。バカみたいじゃん、私、バカみたいじゃん！ 私ばかりいろいろ気にして、バカみたいじゃん！

女3 モモちゃん。

女2 ……

問

女2 ……ごめん、なんか、言いたいこと、言えずきた。

女3 んーん、なんか、私の方こそ、(ゴメン)

女2 いいの、エリちゃんは悪くない。二人は悪くない。

女2 ……私が、悪い。なんか勝手に、そういうこと思っつただけ。二人になんの思惑も悪気もないのは、わかっつてる。

女2 だから、私が悪い。ふつーな自分に勝手にコンプ抱いて、結婚するっつても不安で、これからずっつとそんなんで終わるのかなっつて思っつたらそれも不安で。

女1 モモ。

女2 ……え？

女1 私は、なんかいいと思うよ、そーゆーの。

女2 いい？ は……？ え、どこが……？

女1 なんか、諦めてない。もがいてる感じ。

女2 え？

女1 納得して諦めたら、そこでももん。もがき続けているの、いい感じ。なんか、そーゆーのがあんたらしい。と、私は、思う。  
女2 ……。

女1 あんたは、人生を諦めてない。羨ましいよ。そう考えられるのが、いいと思うよ。

女2 お姉ちゃん、それ、どーゆー（こと？）

女1 モモ。

女2 ？

女1 今度さ。

女2 え。

女1 あんたの式とか暮らしとか、色々落ち着いたら今度さ、鎌倉行こうか。旦那も一緒にさ。

女3 鎌倉？

女2 ……何で？

女1 いいから。じゃ、私寝直すから。ゆっくりしてき。コレ、ありがとね。

女2 あ、ちよっと。

女1、花を取り、鼻歌まじりで出て行く

僅かな間

音楽

女3 鎌倉か……

女2 ……何いきなり、お姉ちゃん。

女3 ねえ、モモちゃんさあ。

女2 なに？

女3 覚えてる？ みんなで鎌倉行ったの。

女2 どしたの、エリちゃんまで鎌倉の話？ それ、さつきよろっとお姉ちゃんとも話したの、前（鎌倉に行った時のこと）

女3 いいから。覚えてる？

女2 ……覚えてるよ。もうだいぶ前の話だね。

女3 紫陽花が綺麗な時期でさ。紫陽花の有名なお寺に行つて。

女2 そうそう、すごい人だったね。紫陽花の花よりも人の頭の方が多くくらいでさ。

女3 列が全然進まなくて、お姉ちゃんめっちゃいらいらしてた。

女2 あーそうだ、そうだ。ね。（笑う）

女3 ……でも綺麗だったなあ、綺麗だったなあ、あの紫陽花の花。

女2 うん、綺麗だったね。

女3 花言葉がさ。

女2 え？

女3 紫陽花の花言葉。

女2 ああ。何？

女3 紫陽花の花言葉って結構ネガティブなのが多いんだよね。有名なものでは「移り気な恋」「浮気」「無情」「あなたは美しいが冷淡だ」

女2 ああ、そう言えは聞いたことある。咲いている間に色が変わるから移り気、なんだってね。

女3 うん。それに土によっても色が変わる。違う色の花が咲く。

女2 そう考えると、なんんか悲しくて寂しい花だね、紫陽花って。咲くのも雨が多い季節だし。……そう言えはあの日も雨降ったっけねえ。

女3 そうだね。

女2 霧雨みたいなの、細かい雨。

女3 私、あーゆー雨一番嫌い。どうせ濡れるんならもっと思いつき濡れたい。

女2 ……（笑う）

女3 なに、

女2 エリちゃんらしーや、なんか、そういう考え方。

女3 そうかな？

女2 うん。繊細で潔癖なくせにどこか豪快で、常識に囚われない感じ。いいなあ。

女3 え？

女2 いいなあ。私には、できないなあ。

女3 モモちゃん

女2 お姉ちゃんみたいなのも、エリちゃんみたいなのも、できないなあ。

女2 うん、できない。できないなあ。

間

女2 紫陽花には雨がよく似合う。あれって、涙なのかもね。紫陽花、泣いてるのかもねえ。

女3 そうかな。

女2 そうだよきつと。そんなだから、寂しい花言葉が多いんだよねきつと。

女3 そうかもしれない。でもね、こういうのもある。

女2 なあに？

女3 一家団欒。家族の結びつき。

女2 ……。

女3 ……紫陽花ってさ、小さな花が、萼ってんだけど、その萼が、こう、いっぱい集まってできてるでしょ。

女2 うん、

女3 だからね。そういう花言葉も、ある。一家団欒、家族の結びつき。

女2 うん。

女3 そうやって寄り添って例えば雨の降り続く中でも鮮やかに咲いてる。

女2 うん。

女3 だからね、みんないたら怖くないんだよ。

女2 うん。

女3 みんなで一つの花だから。みんなで家族だから。

女2 うん。

女3 だから、大丈夫なんだよ。

女2 ……うん。

舞台は次第に溶暗

幕